

大東亜戦争の敗戦により日本は、六年八か月に渡りGHQの占領下にありました。

国際法上は、被占領国の法律を占領国が変更することは許されていないにも関わらず、巧妙に日本の憲法をアメリカに都合のいいように誘導し、今も一字一句変更せず、「不磨の大典」となっています。

自国を守る軍隊を持つことも許されず、自国の国民が拉致されても取り返すことも出来ないのが日本です。これで、独立国と言えるのでしょうか。

「もし戦争が起きたら戦うか」という質問に、我が国の「はい」は、十三%という、世界七十九か国中最低の数字でした。二番目のリトアニア・スペインでも三十三%で、最高のベトナムは九十六%です。

日本人が日本人としての、誇りと自信を根こそぎ引き抜き、二度とアメリカに立ち向かわないように「WGIP」で、徹底的に洗脳教育をしました。更にGHQは、日本という自国が嫌いな「敗戦利得者」を利用しました。日教組や、左翼系インテリ、朝日新聞等のマスコミが、その代表的なものです。

祝日の内でも最も大切な「四大節」①四方拝②紀元節③天長節④明治節も、GHQにより廃止されました。

昭和四十一年になって、「紀元節」は、ようやく「建国記念日」として復活しましたが、神武天皇が橿原神宮で即位された日という重要な意味が不明のままです。

「天長節」は、昭和天皇の誕生日で、今なら二月二十三日になります。

「明治節」は、十一月三日で、明治天皇の誕生日になりますが、「文化の日」となり、これも真意が解りません。

今こそ、我々日本人が日本人としての自信と誇りを取り戻すために、「四大節」を、復活して参りましょう。

皇紀二千六百八十四年、皇室は男系男子を繋ぎ、当に世界一の血脈です。

震災や天災の都度、被災地を尋ね、親しく被災者に、ねぎらいの声を掛けられると、普段なじみのない人でも、例外なく目頭を押さえ感涙の思いになります。

一国の総理大臣が、被災地に来た時との差は歴然たるものです。これが、我々の心なので、魂なのです。紐帯なのです。

GHQが、皇室を自然消滅させるため、十一宮家を「皇籍離脱」させました。

その方々に、もう一度「皇籍復帰」して頂ければ、皇室は安泰です。男系男子が数名おられるのです。

かつて、第二十六代継体天皇は、五代遡り男系男子を守られたといわれています。

日本の最大・最高の至宝は「皇室」です。万世一系を守って参りましょう。

我々、中小企業の社長三百万人が立ち上がれば可能です。さあ、日本の時代です。

今月のポイント

日本の歴史・伝統・文化が

世界の混乱を救う

